第23号
（発行所）
真宗大谷派
松岡山 廣讃寺
中村区城屋敷町3-30
TEL(052)411-5301
FAX(052)411-5341

二月凛凛

二月は凛々（りんりん）とした時だ。身辺に知友の病状が届く。それとなく机上の声明集末尾の代々御忌日をみる。五上人の忌日が二月だ。やはり二月はそうなんだと独断する。

先々代彰如上人の忌日は昭和十八年二月六日である。彰如上人は句仏上人と愛称されている。句作の名手であった。懸葵（かけあおい）といった俳誌をよりどころとしてみえた。大学に詩痩会（しそうかい）なるクラブらしきものがあり、水棹とか柳子女さん方先輩の指導もあって六カ月ほどの間であったが熱中した。その当時の句を紹介しておく。

長き夜や　人形はあちら　むいたまま　柳子女

恵信仏　おろがみでる　紅葉かな　水棹

燦々（さんさん）と　霜夜の星の　降ってくる　あきら

等の句が浮かんでくる。花鳥風月、人生男女のロマンを謳歌（おうか）していた。すでに戦争は続行していたが戦争までもが美化され認識の度合いは低いものであった。たったの六カ月であったが楽しかった。なぜ六カ月であったかは、次の年表を見ていただければ理解できると思う。

年表

十八年一月　ガダルカナル撤退はじまる
十八年四月　山本五十六司令長官戦死
十八年五月　アッツ島守備隊全滅
十八年九月　イタリア無条件降伏
十八年十月　勅令学徒動員令
十八年十二月　学徒出陣

句仏上人の葬儀はくしくも日本の敗戦に傾いていく時の事でもあったのだ。ちまたには軍歌が鳴りやまなかった。男子はゲートルを巻き女子はもんぺが定められていた。パーマネントは禁止になり配給の主食も滞りがちであった。でも国民の大多数は、いずれこの戦争は日本の勝利に終わると信じていた。というのは大本営発表はいつもいつも皇軍の勝利を放送していたから。今にして思えば、真実は国民に知らされなかったということだ。

政権は交代した。六カ月になろうとしている。政界も財界も凛々としてありたいものだ。宗教界はいうに及ばず、国民一人一人の生活の根底に凛々とした雪解け水の流れる世が待ち遠しいものだ。

和讃に曰（いわ）く

無明煩悩しげくして　塵数（じんじゅ）のごとく遍満す
愛憎違順することは　高峯（こうぶ）岳山にことならず

現代文化は権実真仮のはんらんの内にあるのだ。真如の門に転入すべきである。

住職童話

狸（たぬき）の村でのお話。村一番の大狸が豆狸に言いました。

大狸「世界で一番大きくて美しい物はなーに」。

豆狸はああでもなし、こうでもなしと考えて言いました。

豆狸「それは村の西側にあるあの山だ。一番高いし夕日が美しい」。

大狸はそれを聞いてがっかりしました。そして次にこの豆狸は知恵もないやつだからと自分をなぐさめました。大狸は豆狸が村で一番大きくて毛並みのよい自分をほめてくれることをあてにしていたからです。

ここからあとはお釈迦様の説法です。

『人間は皆人間としては一緒ですが、考えていることは一人一人別々ですよ。わかってもらうということ、理解するということは大変なことですよ。だから夫婦でも親子でもお友達とでもあせらずゆっくりと話し合うことですよ。「五劫思惟之摂受」仏様が人間を救う方法を五劫もの長い年月考えてようやくみつけて下さったほどです。そんな人間がおいそれと手っ取り早くうまくいくはずはありません。ゆっくりゆっくり一歩一歩前進してください』

里芋日記（二十一年十二月十七日）

中島義光

昨日、同朋会・勉強会等のメンバー五十人ほど集まり、芋煮会を行った。門前の駐車場横で栽培した里芋を百八十個ほど収穫し芋煮に使った。

収穫した里芋は十月の芋名月時に収穫した芋の二倍以上大きくなっていた。そのため十六株中六株使用するだけで五十人分を確保できました。

芋煮会の席上で「芋が柔らかくておいしかった」と言っていただき「五月から九月までの五カ月間、毎日芋に水を大量に掛けて作ったかいがあった」と感じた。作物は手を掛ければかけるほど成果として応えてくれるものだということを知りました。

今年の里芋つくりは全般的に一株で三十個ほどの出来で、去年よりはやや少なめであった。やはり連作の影響が出ているように感じた。来年は連作を避け、しっかりした土づくりを心がけよう。

平成21年　廣讃寺五葉松と本堂

廣讃寺の五葉松

和美

私の父は岩塚の三菱重工業会社の守衛であった。

昭和二十年終戦八月のある日、二人の兵隊が門に来て

兵隊『私たちが育てた五葉松を会社に植えてください』

父『松か、おお立派な松だなー』

兵隊『ハイ私たちは中村の高射砲陣地の者です。故郷香川県屋島から持ってきて大事に育てた松です。陣地が廃虚となるので、もらってください』

父『しばらく待って』と工場長に電話する。

工場長『五葉松か。正門付近に植えたら』との返事。

兵隊と協力して門内に植えた。

父『五葉松もうないか』

兵隊『まだ数本あるよ』

父『そうか一本くれ。お寺に持って行きたいんだ』

翌日は非番であり植木専用の大八車を引き、中村の高射砲陣地へ行った。そして二㍍ほどの五葉松を、本堂は焼失してない廣讃寺の一等地に植えた。今から六十五年前の事である。

平成の今、五葉松は七㍍ほどに育ちその後に再建された本堂とともに廣讃寺の顔である。

※行事予定（二月）

二月十三日（土）七時　同朋委員会・例会

十九日（金）二時　学習会

二十八日（日）十時　二十八日講・女人講

『親鸞聖人七百五十回御遠忌法要』

廣讃寺より　京都本山へ

団体参拝します

※来年

平成二十三年四月二十四日（日）

みなさんご参加下さい。

※行事予定（三月）

三月十三日（土）七時　同朋委員会・総会

十九日（金）二時　学習会

〔春季彼岸永代経・蓮如講　執行〕

三月二十一日（日）十時　おつとめ・委員長報告

おとき　説教　前田健雄師

一時　おつとめ

三時　帰敬式

二十二日（祝）三時　おつとめ・法話

二十三日（火）三時　おつとめ・法話

二十四日（水）女人講・報恩講

十時　おつとめ・住職法話

おとき

一時　おつとめ・住職法話

二十八日（日）二十八日講・総会